



五月の園藝

大 岩 金

爛漫たる櫻花の候は既に過ぎて今は葉櫻やその他の樹々の若葉の新緑をめぐる頃となりました。

しかし花園は前月におとらぬ美事な時でありま
す。即ち昨秋蒔き下しました二年草や宿根草など
夫々その美を競つて居ります。それ等草花の極普
通なもの栽培法等に就きましては第三十巻第五
號に簡單ながら申し上げて居りますから省略する
事に致しましてそれに書きもれて居りますもので
今心づきましたものゝ名稱を挙げますればフロツ
クスノ類、石竹、ニホヒアラセイトウ、シレネペ
ンヂユラ、アルメリヤ、ミヤコワスレ、アワモリ

サウ、デキタリス、オダマキ、昇り藤、芍薬など
花木類では牡丹、藤、薔薇、エニシダ、シヤクナ
ゲ、ツツヂ、八重山吹などでありませう。

繁殖

朝顔は一般の春蒔種子よりも少しおくれて八十
八夜前後に蒔くのが適期とされて居りますが、そ
れは大抵五月の三四日頃に當り本年は三日になつ
て居りますが、丁度その頃に播種すればよいので
あります。朝顔の種類は是を二大別して大輪種と
變化種にして居りまして古から朝顔専門に栽培
してゐる人もなか／＼澤山ありその栽培法などに

至りましても色々人によつて異なつて居りますが、私共素人特に小供作りと致しましては大輪種を選びその栽培法もなるべく簡單なものとつた方がよいかと思ひます。さて種子の蒔き方でありますが、別に名稱別もなく大量を蒔きます場合には苗床又は種子蒔鉢、箱等に散播にすればよいのでありますが、名稱別にしましたものとか、子供一人／＼に一鉢づつ分擔して受持たせるとかいふ場合には、夫々名稱を立札に書き付けまして始めは三寸鉢に二粒乃至三粒を點播致します。一鉢一粒にしなないのは萬一にも發芽しないやうな事のありました場合の豫備であります。この點は子供にさせます場合などは特に必要かと思ひます。かくして播種後は水のみ乾きすぎないやうに注意致しますれば一週間前後には發芽して參ります。發芽しますとやがて二葉があらはれは日ならずして展開するのでありますが、この時稀に種皮を冠

つたまゝで伸びて完全に開ききれない場合がありますますからこの時には如露で灌水して然る後丁寧な皮をとつてやるのであります。鉢作りにおきましてはこの二葉は後々までも永存するのを上乘として居ります。かくて播種後二週間もすれば二葉も相當に伸びてやがて本葉が出ますやうになりますから朝顔におきましては本葉の出ないうちに第一回の移植を致します。この時には三寸鉢に一本づつ植えます。最初に二三粒まきましたものも植ゑ替へて一本丈を鉢の中央に植ゑるやうに致します。そして二三日は半日蔭の所におき漸次日當のよい所に出し一週間位たちましてかち油粕の腐汁の稀めましたものを葉にかけないやうにやります。そして第二の仕事に移るのであります。是は次號にゆづります。

ゼラニウム、ペラゴニウム是等もそろ／＼露地で挿木が出来ますが是は他の草花類の挿木と

趣きを異にし、三四節毎に切りましたならば、この切口を半日位蔭干にしまして然る後、苗床なり砂を盛つた鉢なりに挿すのであります。挿木して後もあまり過濕にならないやうに注意しなければなりません。

移植及定植

前月に播種しました草花類や蔬菜類は本葉が四五枚出しましたならば夫々移植又は定植しなければなりません。しかし二十日大根やビートの如きは移植しないで何回にも分けてその都度小さい貧弱なものを間引するのでありまして最後の間隔を七、八纏位にする程度でよいのでありまして、その間引の後に油粕の腐汁を施します。かくして居りますうちに二十日大根にありましては播種後一ヶ月もすれば收穫するに適した大きさになります。あまり長くおきます時は中に條が出来て却つて味が悪くなります。その後地にはトマト、ツル

ナ、フダンサウ等いづれでも定植してよろしく都合に依つては又二十日大根を播種してもよいのであります。かくして定植したものには活着後一週一度位の割合に施肥致します。

その他前月に引續き秋播ものの鉢をゆるめるとか或は花壇に定植するなどなか／＼多事であります。

その他の管理

いつもながら旺盛なのは雑草であります。絶えず除草を怠らないやうにとらなければなりません。同時に蚜蟲を始め毛蟲類などの害蟲も充分に薬劑を散布して驅除につとめます。

草苺には既に敷いてもありませうが、花の下に敷藁をして實の汚れるのを防ぎます。同時に注意しなければならぬ事はこの敷藁の爲にカタツムリが潜在し折角の熟した實が半ば食されてゐる様な事も應々あるのであります。(以下六八頁下段に續く)

を全く持たないといふことは、一面から見ればまことに至當な、賢明なやり方であると思はれる。

一見タワイない、辻褄の合はぬ出たらめと思はれるお話にも、仔細にたづねれば、確りした構造が隠れてゐる。お話の面白いのはそのためである。

構造をはじめとして、もしお話に論理といふものがなければ、話手の御都合主義によつて勝手法界に話されるものであつたら、お話は只ばかしくしただけで、決しい面白いものではなく、又そのストオリイ・プロットの構成から聞手の構成想像を刺戟するといふやうなことは出来なくなる。話されるものが『お話』でないといふことは、やがて教育的に考へても意味の稀薄なことになるらう。

お話は「有り得べからざることを語るもの」はあるが、たゞの大げなし、嘘げなしのみが喜ばれるのではない。やはり聞手の経験や想像にうつたへて、そこに面白いお話が語り出されるのであ

る。「お話とは何か。」この疑問に答へるのはむづかしいが、併し、たとへ一篇のお話でも仔細に検討すれば、その答に該當するなんらかの指示は惜しまないものであらう。

(六四頁よりつゞく)

球根類にありましては花の終つたものは結實させないで、なるべく花軸を摘みとり、チューリップなどの晩生種で丈の高いものには、風に折られぬやう支柱を立てる事、花後に一回施肥することなどその主なる仕事であります。

又これまでフレーム内におさまして觀賞して居りましたシネリヤ、マーガレットなどは、もう花壇に下して花壇を賑はせるやうに致します。

目立つ程のはでやかな花ではありませんが、同じくフレーム内に保護してありました、ヘリオトロップも花壇の一部分に植多込みます時は馥郁たる芳香を放ちます。